



2016年度日本水文科学会総会 次第

日時：2016年10月15日(土) 18:00～19:00
場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外堀校舎6階
薩埵（さった）ホール

報告事項

- (1) 2015年度事業報告 (資料1)
- (2) 2015年度決算報告 (資料2)
- (3) 2015年度会計監査報告 (資料3)
- (4) 2016-2018年期水文科学会 常任委員及び委員会委員の委嘱について (資料4)
- (5) 2016年度学会賞選考委員会答申について (資料5)

審議事項

- (1) 2016年度事業計画 (資料6)
- (2) 2016年度予算案 (資料7)

その他

- (1) 2016年度ワーキンググループ活動および災害時緊急調査補助金への申請と交付について (資料8-1, 8-2)
- (2) その他

2015年度事業報告

資料1

A 庶務委員会

(1) 会員管理【国際文献社委託事務】

(2016年3月31日現在)

年度末	名誉会員	正会員			学生	小計	賛助会員	購読会員
		一般Web	シニアWeb	永年				
2015年度	10名	145名 32名	7名 3名	2名	8名	206名	4機関	7機関※

※書店卸：取引7件（部数合計14部），寄贈6件，広告1件

(2) 会誌・その他の連絡物の発送【国際文献社委託事務】

発送回数	発送先	発送内容	発行年月日
第1回	一斉発送	学会誌45(2)	2015年7月24日
第2回	一斉発送	学会誌45(3)	2015年11月10日
第3回	一斉発送	学会誌45(4)	2016年1月19日
第4回	一斉発送	学会誌46(1)	2016年3月28日

(3) バックナンバーの管理・販売

年度	販売件数	販売冊数	販売金額
2015	9件	9冊	5,700円

(水文科学会誌8冊, 3,700円, 日本水文科学会学術大会発表要旨集1冊, 2,000円)

(4) 事務業務の一部外部委託

契約・委託先・委託期間	委託内容	金額(年額)
(株)国際文献社：	庶務事務・会計事務の一部（諸経費含む）	385,444円（619,911円）
さくらのレンタルサーバスタンダード	学会ホームページ学会メールアドレス・メーリングリスト等	6,000円

(5) その他

B 会計委員会

(1) 会費の徴収

(2) 会務に伴う出納処理

- ・各種請求書類の発行

(3) 会費納入率の向上への取り組み

- ・会費未納者あてに督促状を送付

(4) その他

会計業務の一部外部委託（国際文献社）

C 編集委員会

(1) 会誌の発行

巻	号	発行年月日	掲載数	
45	2	2015年7月24日	6	論文1, 企画序文1, 企画2, 報告1, 学会記事1
45	3	2015年11月10日	6	特集序文1, 特集総説2, 企画2, 報告1
45	4	2016年1月19日	5	特集資料1, 特集講演再録1, 特集論文1, 企画1, 学会記事1
46	1	2016年3月28日	7	紙碑2, 特集総説1, 研究ノート1, 論文1, 報告1, 学会記事1

※掲載数には、巻頭言、総説、論文、研究ノート、資料、企画、討論、講演再録、報告、書評・紹介、学会記事、その他を含む。

(2) 編集体制

- 1) 2015年度総会にて承認され、46巻より年間3号体制（4月号、8月号、12月号）に変更となった。ただし、会誌回数切り替え時期に当たる2016年中は3月、8月、12月の発行となります。これに合わせて、受理論文の仮掲載をHP上で行うことなどが決定した。
- 2) 次期の委員会では、新たな企画「シニア会員の座談会記事」「47都道府県水企画」「若手向け誌面講座」など継続審議とした。

D 集会委員会

(1) 総会の開催

2015年度 2015年10月10日(土) 17時20分～18時10分（産業技術総合研究所）

(2) 学術大会の開催

2015年度 2015年10月9日(金)～11日(日)（産業技術総合研究所）合計148名（一般会員49名、学生会員1名、その他98名（非会員70名、展示企業関係者3名、中高生・保護者・引率教員25名））

(3) シンポジウムの開催（企画委員会と合同で実施）

(4) 学術大会発表申込・要旨原稿投稿のweb受付の実施

（2008年度大会より継続実施）

(5) 学術大会における優秀発表賞の選考及び表彰

2015年度優秀発表賞（口頭発表：野本大輔（東京大）「目黒区で観測された高 d-excess 降水イベントの解析」、ポスター発表：小野昌彦（産総研）「富士山南西麓における地下水流動、水質、希ガスの特性」）

E 広報・企画委員会

(1) 研究ワーキンググループ募集（通年）

(2) 災害時緊急調査補助金募集（通年）

(3) 地球惑星科学連合大会でのセッションの開催・共催（5/25～29）

A-HW24 安原 正也 同位体水文学2015

A-HW25 安原 正也 都市域の地下水・環境地質

A-HW26 内田 洋平 水循環・水環境

A-HW27 中屋 眞司 流域の水及び物質の輸送と循環一源流域から沿岸域まで一

(4) 地球惑星科学連合各種委員会委員の派遣・推薦（任期：～2016.4.30）

代表者	（会長）	鈴木 啓助
事務局	（庶務委員長）	宮岡 邦任
連絡委員	（企画委員長）	内田 洋平
環境・災害対応委員会	（学会推薦）	林 武司
教育検討委員		辻村 真貴，宮岡 邦任
プログラム委員会	（学会推薦）	内田 洋平
新ジャーナル編集委員会	（学会推薦）	杉田 文

(5) 2015年度公開合同シンポジウムの開催（つくば大会実行委員）

- 10月9日(金) 公開合同シンポジウム「地質災害と地下水」
日本水文科学会・一般社団法人日本応用地質学会（共催）
- 10月11日(日) 公開シンポジウム「同位体マッピング研究の最前線 降水の時空間ラベルの高精度化に向けて」

(6) 学会ホームページ

- ・英語版HPを作成
- ・カウンターを設置
- ・会員専用ページについて
- ・各委員会からの情報提供をお待ちしております。情報を頂ければ、通常は1日～2日でアップロードできる体制を整えてあります。

(7) 水文科学会誌オンライン公開 (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jahs/>)

2015年 Vol. 45 (2015) No. 2～4, Vol. 46 (2016) No. 1

F 学会賞選考委員会

a) 研究奨励賞

2015年度 対象者なし
該当論文なし

b) 学術賞

2015年度 小野寺真一（2015年度水文科学会評議員会で承認，会長より表彰）

c) 功績賞

2015年度 肥田 登，森 和紀，吉越昭久，田中 正，田瀬則雄
（2015年度水文科学会評議員会で承認，会長より表彰）

資料2

2015年度収支計算書

2015年4月1日から2016年3月31日まで

I. 収入の部

勘定科目		当年度予算額 A	収入済額 B	差 B-A	備考
大科目	小科目				
会費収入	正会員（一般）会費	¥ 1,224,000	¥ 1,164,000	¥ -60,000	会費¥8,000
	正会員（一般web）会費	¥ 120,000	¥ 117,000		会費¥4,000
	正会員（シニア）会費	¥ 32,000	¥ 32,000		会費¥4,000
	正会員（永年）会費	¥ —	¥ —		会費¥1,000
	正会員（永年web）会費	¥ —	¥ —		
	学生会費	¥ 9,000	¥ 3,000	¥ -6,000	会費¥1,000
	準会員会費	¥ —	¥ —	¥ —	会費¥2,000
	購読会員会費（書店販売含む）	¥ 268,000	¥ 254,000	¥ -14,000	会費¥14,000 書店卸¥12,000
	賛助会員会費	¥ 100,000	¥ 120,000	¥ 20,000	一口¥20,000
小計		¥ 1,753,000	¥ 1,690,000	¥ -63,000	
大会収入	大会収入	¥ 140,000	¥ 74,313	¥ -65,687	発表要旨集売上など
雑収入	利息収入	¥ 4,000	¥ 1,578	¥ -2,422	
	学会データベース	¥ 40,000	¥ 84,539	¥ 44,539	著作権料
	バックナンバー売り上げ	¥ 10,000	¥ 6,645	¥ -3,355	
	広告ほか	¥ 380,000	¥ 100,000	¥ -280,000	広告料
	寄付金	¥ —	¥ —	¥ —	
小計		¥ 434,000	¥ 192,762	¥ -241,238	
科目計		¥ 2,327,000	¥ 1,957,075	¥ -369,925	
前期繰越収支差額		¥ 5,416,536	¥ 5,416,536	¥ —	
合計		¥ 7,743,536	¥ 7,373,611	¥ -369,925	

Ⅱ. 支出の部

勘定科目		当年度予算額	支出済額	残額	備考
大科目	小科目	A	B	A-B	
大会支出	大会補助	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ —	規定額
	大会追加補助	¥ —	¥ —	¥ —	
	プログラム, ポスター, 要旨集印刷費	¥ 110,000	¥ 114,048	¥ -4,048	要旨集印刷代
	総会・シンポジウム	¥ 100,000	¥ —	¥ 100,000	
	人件費	¥ 20,000	¥ —	¥ 20,000	
	通信運搬費	¥ 3,000	¥ —	¥ 3,000	
	交通費	¥ 30,000	¥ 75,014	¥ -45,014	非会員講演交通費
小計		¥ 363,000	¥ 289,062	¥ 73,938	
会誌発行費	会誌印刷費	¥ 1,166,400	¥1,439,703	¥ -273,303	45巻2号~46巻1号 (4冊)
	通信運搬費	¥ 103,000	¥104,572	¥ -1,572	45巻2号~46巻1号 (4冊) 送料
	人件費	¥ —	¥ —	¥ —	
	交通費	¥ 120,000	¥ —	¥ 120,000	
	会議費	¥ 16,000	¥ —	¥ 16,000	
	消耗品費	¥ 3,000	¥ —	¥ 3,000	
	謝金	¥ 6,000	¥ 8,328	¥ -2,328	非会員査読 (図書カード)
小計		¥ 1,414,400	¥ 1,552,603	¥ -138,203	
管理費	人件費	¥ —	¥ —	¥ —	
	印刷費	¥ —	¥ —	¥ —	
	通信運搬費	¥ 20,000	¥ 42,886	¥ -22,886	総会通知送料, レンタルサーバー, FAXサービス
	消耗品費	¥ 2,000	¥ 9,880	¥ -7,880	委任状用はがき代
	会議費	¥ 16,000	¥ 21,780	¥ -5,780	委員会会議室料
	交通費	¥ 5,000	¥ 40,221	¥ -35,221	委員会交通費
	業務委託費	¥ 560,000	¥385,444	¥ 174,556	
	会費収納経費	¥ —	¥ —	¥ —	
雑費	¥ 5,000	¥ 119,700	¥ -114,700	HP 英文翻訳代, 振込手数料	
小計		¥ 608,000	¥ 619,911	¥ -11,911	
選挙費	選挙実行経費	¥ 20,000	¥72,971	¥ -52,971	2016 運営委員選挙費用
	名簿作成	¥ 30,000	¥ —	¥ 30,000	
小計		¥ 50,000	¥ 72,971	¥ -22,971	
その他	ワーキンググループ補助ほか	¥ 100,000	¥ —	¥ 100,000	
	地球惑星科学連合年会費	¥ 10,000	¥ 10,000	¥ —	地球惑星科学連合年会費
	表彰費	¥ 20,000	¥ 118,800	¥ -98,800	表彰記念品代
小計		¥ 130,000	¥ 128,800	¥ 1,200	
科目計		¥ 2,565,400	¥ 2,663,347	¥ -97,947	
予備費		¥ 5,178,136	¥ 4,710,264	¥ 467,872	
合計		¥ 7,743,536	¥ 7,373,611	¥ 369,925	

2015年度貸借対照表

2016年3月31日時点

勘定科目	金額	勘定科目	金額
I 資産の部		II 負債の部	
預金		未払金	¥950,115
ジャパンネット銀行	¥ 4,218,734	負債合計	¥ 950,115
ゆうちょ銀行	¥ 1,441,645	III 正味財産の部	
		前期繰越正味財産	¥ 5,416,536
		当期正味財産増加額	¥ -706,272
		正味財産合計	¥ 4,710,264
資産合計	¥ 5,660,379	負債及び正味財産合計	¥ 5,660,379

平成 28 年 5 月 30 日

日本水文科学会 会長 殿

日本水文科学会
平成 27 年度会計監査委員

安池 慎治



会計監査報告書

監査委員は、監査証明を行うため日本水文科学会平成 27 年度の会計報告に関する収支計算書、帳簿等を監査しました。

監査の結果、平成 28 年 3 月 31 日現在の収支状況を適正に表示しているものと認めました。

平成 28 年 6 月 3 日

日本水文科学会 会長 殿

日本水文科学会
平成 27 年度会計監査委員

原美登里 (原)

会計監査報告書

監査委員は、監査証明を行うため日本水文科学会平成 27 年度の会計報告に関する収支計算書、帳簿等を監査しました。

監査の結果、平成 28 年 3 月 31 日現在の収支状況を適正に表示しているものと認めました。

会 長	嶋田 純
評 議 員	飯泉 佳子, 井岡 聖一郎, 石井 吉之, 一柳 錦平, 小野寺 真一, 小寺 浩二, 近藤 昭彦, 杉田 文, 谷口 真人, 知北 和久, 辻村 真貴, 林 武司, 檜山 哲哉, 町田 功, 宮岡 邦任
会 計 監 査	杉田 倫明, 吉田 誠
常任委員会	石井 吉之(委員長), 飯泉 佳子, 井岡 聖一郎, 一柳 錦平, 杉田 文, 檜山 哲哉, 町田 功
庶務委員会	杉田 文(委員長), 宮岡 邦任, 宮下 雄次
会計委員会	一柳 錦平(委員長), 辻村 真貴
編集委員会	井岡 聖一郎(委員長), 飯田 真一(副委員長:学会誌), 浅井 和由, 佐藤 努, 斎藤 光代, 戸崎 裕貴, 中村 高志, 樋口 篤志, 小野寺 真一(副委員長:企画), 網田 和宏, 大八木 英夫, 小寺 浩二, 谷口 智雅, 原 美登里, 林 武司(副委員長:HRL), 細野 高啓(HRL), 宮越 昭暢(HRL)
集会委員会	飯泉 佳子(委員長), 井川 怜欧, 上村 剛史, 小寺 浩二, 沼尻 治樹, 森川 徳敏, 山中 勝
学会賞選考委員会	檜山 哲哉(委員長), 浅井 和由, 飯田 真一, 井岡 聖一郎, 谷口 真人, 知北 和久, 丸井 敦尚
企画・広報委員会	町田 功(委員長), 内田 洋平, 近藤 昭彦, 塚本 斉, 樋口 宏之

研究奨励賞受賞対象論文：

大規模地下施設の建設，排水に伴う浅層地下水の地下深部への侵入— ^3H ， CFCs ， SF_6 トレーサーを用いた評価—（日本水文科学会誌，第45巻2号，21–38頁。）

著者：

萩原大樹・岩月輝希・長谷川琢磨・中田弘太郎・富岡祐一

受賞候補者：

萩原大樹 会員（日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島環境安全センター）

推薦理由：

本論文は，地下施設周辺の浅層地下水の深部への侵入を推定するための評価手法を構築することを目的として，瑞浪超深地層研究所における深度500 mまでの地下施設の建設期間中に，地下水中の主要化学成分，水の水素・酸素安定同位体比，トリチウム濃度，クロロフルオロカーボン類（ CFCs ），六フッ化硫黄（ SF_6 ）を約5年間にわたってモニタリングし，地下施設の建設に伴う排水によって浅層地下水の地下深部への侵入を確認したものである。

地下施設の建設に伴う排水の影響により，深度200–400 mまで浅層地下水が侵入してきており，浅層地下水の混入率はトリチウム濃度と CFC-12 濃度から最大で50%程度と見積もられた。この結果は，深度が数百m規模で排水量が月あたり数万トン程度の場合，花崗岩中に地下施設を建設して数年間操業した場合，施設周辺の地下水環境に与える影響の大きさを示した初めての事例であり，大変興味深い。

深部地下水に対する浅層地下水の侵入の指標として年代トレーサーを適用した事例は少なく，基礎的なデータが豊富である点も高く評価できる。トリチウムと CFCs を併用した調査解析が地下施設の建設に伴う排水による浅層地下水の地下深部への侵入を確認するために効果的な手法であることを示した本研究は，今後の地下水水文学への応用に供するものとして大いに評価できる。

以上の理由により，本論文の筆頭著者である萩原大樹会員を，研究奨励賞の受賞候補者として推薦する。

研究奨励賞受賞対象論文：

森林流域における主要無機イオンの流出機構：観測とモデリング（日本水文学会誌，第46巻1号，39-57頁。）

著者：

宮本拓人・知北和久・阪田義隆・落合泰大・ホサイン エムディ モタレブ・大八木英夫・工藤 勲

受賞候補者：

宮本拓人 会員（北海道大学 大学院理学院 自然史科学専攻）

推薦理由：

本論文は、北海道・十勝地方沿岸域にある生花苗川（おいかまないがわ）流域を対象に陸水の電導度モニタリングに基づく解析を行い、河川水の主要無機イオン（ Mg^{2+} 、 Ca^{2+} 、 Na^+ 、 SO_4^{2-} 、 HCO_3^- ）濃度と25°C電気伝導度（EC25）との間に相関の高い線形関係を見出した後、2013年の降雨期に生花苗川で水位・電気伝導度をモニタリングし、得られた溶存イオン濃度とEC25との関係を用いて上記五種のイオン濃度とその負荷量の時系列を得たものである。

上に述べた計測的研究に加え、流量と主要無機イオン負荷量の時系列にタンクモデルとベキ関数を適用し、河川への各種イオン物質の流出経路についても解析を行っている。流出解析の結果、2013年は表面流出と中間流出で流出全体の74.2%を占め、流域外への地下水漏出は16.8%を占めることを明らかにした。また、イオン物質負荷量に対するモデル解析から、全負荷量に対する表面流出、中間流出、地下水流出、河川流出による負荷量の寄与も求めている。

本研究は、しっかりした野外計測結果に基づいていることはもちろん、モデルを適用した論理的な考察がなされており、計測とモデリングの双方がバランスよく記載されている点で評価できる。

以上の理由により、本論文の筆頭著者である宮本拓人会員を、研究奨励賞の受賞候補者として推薦する。

2016年度事業計画

A 庶務委員会

- (1) バックナンバーの管理・販売
- (2) 学会メーリングリストの管理
- (3) 会員名簿の管理【国際文献社委託事務】

【契約項目】

契約・委託先	委託内容	期間	金額（年額）
(株)国際文献社	庶務事務・会計事務の一部 (諸経費含む)	2016.04.01～2017.03.31	560,000円 (608,000円)
さくらのレンタルサーバ スタンダード	学会ホームページ開設	2016.04.01～2017.03.31	6,000円

B 会計委員会

- (1) 会費の徴収（8月）
- (2) 会務に伴う出納処理
- (3) 会費未納者への督促（12月）

C 編集委員会

- (1) 会誌の発行：第46巻第2号～第46巻第3号（2冊）

D 集会委員会

- (1) 大会企画・運営（実行委員会との連携，大会準備の進行管理等）
- (2) 要旨原稿の投稿受付・大会プログラムの作成（投稿窓口，大会プログラムおよび講演要旨集の作成等）
- (3) 優秀発表賞の審査実施（審査票の作成，選考委員会の組織等）
- (4) 特別企画の開催（一般公開特別企画「身近な水環境」の参加呼びかけ，パンフ作製等）
- (5) HP活用（投稿フォームの作成・改変，過去の大会情報掲載等）
- (6) 大会講演要旨集・パンフの印刷

E 広報・企画委員会

2016年度事業計画

- (1) 研究ワーキンググループ募集 (通年)
- (2) 災害時緊急調査補助金募集 (通年) : 1件採択
- (3) 地球惑星科学連合大会でのセッションの開催・共催 (2016年 5/23 ~ 27)
 - A-HW18 安原 正也 同位体水文学2016 (2016年5月25日(水))
 - A-HW19 林 武司 都市域の地水環境と地質 (2016年5月25日(水))
 - A-HW17 内田 洋平 水循環・水環境 (2016年5月25日(水))
 - A-HW16 小野寺真一 流域生態系の水及び物質の輸送と循環—源流域から沿岸域まで (2016年5月26日(木))
- (4) 地球惑星科学連合各種委員会委員の派遣・推薦 (任期: ~ 2018.5.31)
 - 代表者 (会長) 嶋田 純
 - 事務局 (庶務委員長) 杉田 文
 - 連絡委員・新ジャーナル準備委員会 (企画委員長) 町田 功
 - 環境・災害対応委員会 (学会推薦) 林 武司
 - 教育検討委員 (学会推薦) 上村 剛史
 - プログラム委員会 (学会推薦) 町田 功
 - PEPS編集委員会 (学会推薦) 杉田 文
- (5) CPD対応
2016年大会より Continuing Professional Development 単位認定制度導入
- (6) 学会ホームページ
 - ・ホームページの改修
 - ・会員専用ページにて一部論文の早期公開開始
 - ・日常アップデート

F 学会賞選考委員会

- (1) 2016年度学会賞選考委員会の設置
- (2) 学術賞の選考
- (3) 研究奨励賞の選考
- (4) 功績賞の選考

2016年度予算書(案)

2016年4月1日から2017年3月31日まで

I. 収入の部

勘定科目		当年度予算額	前年度予算額	差	備考
大科目	小科目	A	B	A-B	
会費収入	正会員（一般）会費	¥ 1,160,000	¥ 1,224,000	¥ -64,000	会費¥8,000 *145名分
	正会員（一般web）会費	¥ 128,000	¥ 120,000	¥ 8,000	会費¥4,000 *32名分
	正会員（シニア）会費	¥ 24,000	¥ 32,000	¥ -8,000	会費¥4,000 *6名分
	正会員（永年）会費	¥ -	¥ -	¥ -	会費¥50,000
	正会員（永年-web）会費	¥ -	¥ -	¥ -	会費¥20,000
	学生会費	¥ 8,000	¥ 9,000	¥ -1,000	会費¥1,000 *8名分
	準会員会費	¥ -	¥ -	¥ -	会費¥1,000
	購読会員会費（書店販売含む）	¥ 254,000	¥ 268,000	¥ -14,000	購読¥14,000（書店¥12,000）
	賛助会員会費	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ -	一口¥20,000
小計		¥ 1,674,000	¥ 1,753,000	¥ -79,000	
大会収入	大会収入	¥ 140,000	¥ 140,000	¥ -	発表要旨集売上など
雑収入	利息収入	¥ 4,000	¥ 4,000	¥ -	
	学会データベース	¥ 40,000	¥ 40,000	¥ -	
	バックナンバー売り上げ	¥ 10,000	¥ 10,000	¥ -	
	広告ほか	¥ 100,000	¥ 380,000	¥ -280,000	広告, 別刷など
	寄付金	¥ -	¥ -	¥ -	
小計		¥ 154,000	¥ 434,000	¥ -280,000	
科目計		¥ 1,968,000	¥ 2,327,000	¥ -359,000	
前期繰越収支差額		¥ 4,710,264	¥ 5,416,536	¥ -706,272	
合計		¥ 6,678,264	¥ 7,743,536	¥ -1,065,272	

Ⅱ. 支出の部

勘定科目		当年度予算額	前年度予算額	差	備考
大科目	小科目	A	B	A-B	
大会支出	大会補助	¥ 100,000	¥ 100,000	¥ -	規定額
	大会追加補助	¥ -	¥ -	¥ -	
	プログラム、ポスター、要旨集印刷費	¥ 110,000	¥ 110,000	¥ -	要旨集印刷代
	総会・シンポジウム	¥ -	¥ 100,000	¥ -100,000	会場等
	人件費	¥ -	¥ 20,000	¥ -20,000	総会・集会委員会
	通信運搬費	¥ -	¥ 3,000	¥ -3,000	
	交通費	¥ 30,000	¥ 30,000	¥ -	非会員講演旅費
	小計	¥ 240,000	¥ 363,000	¥ -123,000	
会誌発行費	会誌印刷費	¥ 1,400,000	¥ 1,166,400	¥ 233,600	年2冊、JSTAGE掲載料含む
	通信運搬費	¥ 103,000	¥ 103,000	¥ -	会誌送料、編集業務
	人件費	¥ -	¥ -	¥ -	校正等
	交通費	¥ 120,000	¥ 120,000	¥ -	編集委員会開催時旅費
	会議費	¥ 16,000	¥ 16,000	¥ -	編集委員会(会議室料)
	消耗品費	¥ 3,000	¥ 3,000	¥ -	編集用消耗品
	謝金	¥ 6,000	¥ 6,000	¥ -	非会員査読(図書カード)
小計	¥ 1,648,000	¥ 1,414,400	¥ 233,600		
管理費	人件費	¥ -	¥ -	¥ -	アルバイト代
	印刷費	¥ -	¥ -	¥ -	学会封筒印刷等
	通信運搬費	¥ 20,000	¥ 20,000	¥ -	郵便・電話・FAX・Email
	消耗品費	¥ 2,000	¥ 2,000	¥ -	庶務・会計消耗品
	会議費	¥ 16,000	¥ 16,000	¥ -	評議委員会(会議室料)
	交通費	¥ 5,000	¥ 5,000	¥ -	庶務・企画委員会
	業務委託費	¥ 560,000	¥ 560,000	¥ -	業務委託費
	雑費	¥ 5,000	¥ 5,000	¥ -	振込手数料
小計	¥ 608,000	¥ 608,000	¥ -		
選挙費	選挙事務委託費	¥ -	¥ 20,000	¥ -20,000	
	名簿印刷	¥ -	¥ 30,000	¥ -30,000	
小計	¥ -	¥ 50,000	¥ -50,000		
その他	ワーキンググループ補助ほか	¥ 50,000	¥ 100,000	¥ -50,000	ワーキンググループ
	地球惑星科学連合年会費	¥ 10,000	¥ 10,000	¥ -	
	表彰費	¥ 20,000	¥ 20,000	¥ -	表彰記念品代
小計	¥ 80,000	¥ 130,000	¥ -50,000		
科目計		¥ 2,576,000	¥ 2,565,400	¥ 10,600	
次年度繰越額		¥ 4,102,264	¥ 5,178,136	¥ -1,075,872	
合計		¥ 6,678,264	¥ 7,743,536	¥ -1,065,272	

災害時緊急調査補助金

熊本地震が地下水流動に与える影響調査WG

代表者：熊本大学大学院先端科学研究部 一柳錦平

(連絡先：Tel: 096-342-3418; kimpei@sci.kumamoto-u.ac.jp)

参加者：熊本大学大学院先端科学研究部 細野高啓, 嶋田 純

活動目的：

2016年4月14, 16日に発生した地震により、水前寺の湧水が減少するなど、各地で地下水や湧水の変化が認められる。これらは地震による地盤の隆起や沈降による地下水勾配の変化や流動経路の変化、あるいは帯水層や不透水層の亀裂などによる地下水浸透量の違いなど、さまざまな原因が考えられる。

熊本地域は地下水観測井が多く、地震前からのデータが揃っている。また、河川水もほとんどが湧水起源のものもあり、河川水も地下水流動の変化を受けている可能性がある。そこで、熊本地域全域における地震前後の地下水や河川水の水位、水質、同位体などを比較し、熊本地震の影響を明らかにする。

調査方法：

1. 地下水の水位変動データを解析し、地震前後の変動パターンの違いを明らかにする。また、その分布も考察する。
 2. 地下水の水質、同位体比の変動を解析し、地震前後の変化を明らかにし、地下水流動の変化について考察する。
 3. 河川水の水位、流量データを解析し、地震前後の変動パターンの違いを明らかにする。また、その分布も考察する。
 4. 地下水の水質、同位体比の変動を解析し、地震前後の変化を明らかにし、地下水流動の変化について考察する。
- * なお、地下水位、河川水位データは地盤補正が終了した後にしか公表はできない。

これらの観測、分析にかかる費用として、10万円の助成を希望する。

よろしくお願い致します。

水文学のためのSWATモデル高度化に関するワーキンググループの設置について

背景

水文流出モデルは水文過程およびそれに伴う物質移動を流域スケールで評価するための手段の一つとして、多くの研究で用いられている。Soil and Water Assessment Tool (SWAT) モデルは大陸スケールの流域（特に農業流域）における気候・土地利用変動を考慮した水・物質輸送量を推定するために開発されたモデルである。GISと親和性が高く、プログラミングに関する専門的知識を必要とせずに使用できることや、実測データが乏しい場合でも、まずまずの精度で推定できる等の特徴を持つことから近年の学術論文の多くで用いられている。流域蒸発散量や地下水涵養量など直接的な測定が難しい項目の推定や、現地観測結果の解釈など、数値モデル解析を主な専門としない水文学者にとっても、SWATモデルを用いることは非常に有益である。

現在、開発元である米国農務省農業研究局やテキサス農工大学を中心に、主に北米大陸での課題に基づくモデルの改良が進められ、推定精度の向上や新たな予測機能が追加されつつあるが、それらが他の大陸、そして、我が国のような急峻な地形を持つ流域に対して同様に適用し得るのか、その際の問題点の整理および改良点については検証、議論が必要である。

目的

そこで本ワーキンググループは、大陸河川も含めた多様な流域へのSWATモデルの適用可能性に関する文献調査を行い、課題点を整理し、SWATモデルのさらなる高度化に向けた今後の研究の方向性を明確にする。また、水文流出モデルは研究者だけでなく環境コンサル、行政関係者等の実務者においてもニーズが高まっていることから、モデル適用に関する具体的なノウハウや各種パラメータおよび検証データの利用可能状況についてマニュアル・データベースの作成や学会員等を対象とした講習会の実施を試み、本ワーキンググループを通してSWATモデルに関する積極的な情報発信をしていくとともに、外部との今後の連携を強めるような働きかけをしていく。

活動

- 1) 文献調査に基づく課題点の整理
- 2) 我が国のSWATモデルデータベース作成
- 3) 講習会の開催・利用マニュアルの作成
- 4) 社会対応・連携

[提案者, (代表)]

清水裕太 (農研機構)

[提案メンバー]

小野寺真一 (広島大学), 飯泉佳子 (国際農研), 田瀬則雄 (茨城大学), 宮岡任邦 (三重大学), 齋藤光代 (岡山大学)

[想定される学会メンバー]

- 1) 筑波大学グループ, 千葉大学グループ, 広島大学グループ, 北海道大学・知北研, 法政大学・小寺研 他
- 2) 農林業研究グループの学会メンバー 他

[想定される外部メンバー]

- 1) 北海道大学グループ (波多野研, 柴田研 他)
- 2) 岡山大学グループ (大久保研) 他
- 3) 東京農工大学 (加藤研, 渡邊研) 他
- 4) 島根大学 (宗村研) 他
- 5) 農林業研究機関グループ (農研機構, 国際農研, 森林総研) 他
- 6) 中国・中山大学グループ (陳研究室) 他
- 7) ブラジル・サンパウロ大学グループ (ヒラタ研, シロタ研) 他
- 8) 民間企業グループ (応用地質, 八千代エンジニアリング, 復建) 他